

2022 年度 卒業生アンケート結果 報告書

1. 総括

従来の方法では回答率が低く回答者が固定化してきていることが懸念された。そのため 2022 年度は卒後 1 年目 (27 期生 : 59 名) ・ 2 年目 (26 期生 : 61 名) の計 120 名を対象に調査を行った。方法においても、例年 10 月のホームカミングデーや同窓会配布物で依頼・実施していたが、今年度は 30 周年記念式典に代わったため、学年 LINE や看護学科キャリアサポートステーションを通じてメール配信による依頼へ変更した。

回答者数および回答率は、学年 LINE による依頼により回答する者が増え、27 期生 18 名 (30.5%)、26 期生 14 名 (23.0%) であり、昨年度の 7.7% から大幅に増加した。本調査で対象となった卒業生は、2017 年度および 2018 年度入学生であり、平成 29 年にカリキュラム改正された教育プログラムを受けていた。

教育プログラムが就職先や進学先で活かすことができているかに対し、DP6・3・5・7・1 の順で高い割合で活かされていた : DP6 「教養に裏付けられた品格を備えた態度」 100%、DP3 「パートナーシップ」 94.5~100%、DP5 「倫理的態度」 94.5~100%、DP7 「メンバーシップ・リーダーシップ」 92.9~100%、DP1 「主体的学修能力」 が 88.9%~100%。次に高い割合で活かされていたのは、DP2・4 であった : DP2 「課題解決能力」 83.3~85.7%、DP4 「地域医療連携能力」 71.4~72.2%。以上、DP1~7 については活かすことができている割合は 27 期生・26 期生で大きな差は見られず、7 割以上の卒業生が概ね就職先や進学先で活かすことができていた。一方、DP8 「国際的視野」 は回答が分かれ、活かすことができていると答えた割合は 27 期生では 22.3%、26 期生では 57.1% であった。自由回答から、活かすことができている割合は、臨床や進学先ですぐに求められたり発揮したりする必要がある能力と一致していることが伺えた。そのため、本調査で対象となった臨床経験が浅い卒業生では、DP2 や DP4、DP8 は能力が未熟と感じられたり、経験すること自体が稀な事柄であったりしたことから、活かすことができていると評価できなかつた可能性があると考えられた。

2. 概要

1) 時期

2022 年 10 月~11 月末

2) 対象

看護学科卒後 1 年目 (27 期生 : 59 名) ・ 2 年目 (26 期生 : 61 名)

3) 方法

Google Form を用いた無記名 web 上アンケートを実施した。

依頼方法は、看護学科キャリアサポートステーションまたは学年 LINE にて調査依頼とアンケート URL を配信した。具体的には、27 期生は看護学科キャリアサポートステーションを通じてメール配信により依頼したが、回答がなかったため卒業生を通じて学年 LINE から配信を依頼した。26 期生は卒業生を通じて学年 LINE から配信を依頼し、回答者数が少なかったため再配信を 1 回依頼した。

4) 回答者数 (回収率)

卒業後1年目(27期生): 18名(30.5%)

卒業後2年目(26期生): 14名(23.0%)

5) 卒業後看護職として働いた年数

	26期生		27期生	
1年以上2年未満	13	92.9%	-	-
1年未満	1	7.1%	15	83.3%
看護職として働いていない	0	0.0%	3	16.7%

6) 現在の職種

	26期生		27期生	
看護師	13	92.9%	14	77.8%
保健師	0	0.0%	1	5.6%
大学院生(博士前期課程, 修士課程)	1	7.1%	0	0.0%
助産師学生(専門学生)	0	0.0%	2	11.1%
専攻科	0	0.0%	1	5.6%

7) 雇用形態

	26期生		27期生	
常勤	13	92.9%	16	88.9%
非常勤	1	7.1%	0	0.0%
働いていない	0	0.0%	3	16.7%

8) 所属施設の種類の種類

	26期生		27期生	
大学病院	9	64.3%	9	50.0%
総合病院など(入院設備あり)	4	28.6%	5	27.8%
保健所など	1	7.1%	1	5.6%
働いていない	0	0.0%	3	16.7%

9) 卒業後の進学の有無と進学先

	26期生		27期生	
進学していない	12	85.7%	15	83.3%
進学した	2	14.3%	3	16.7%

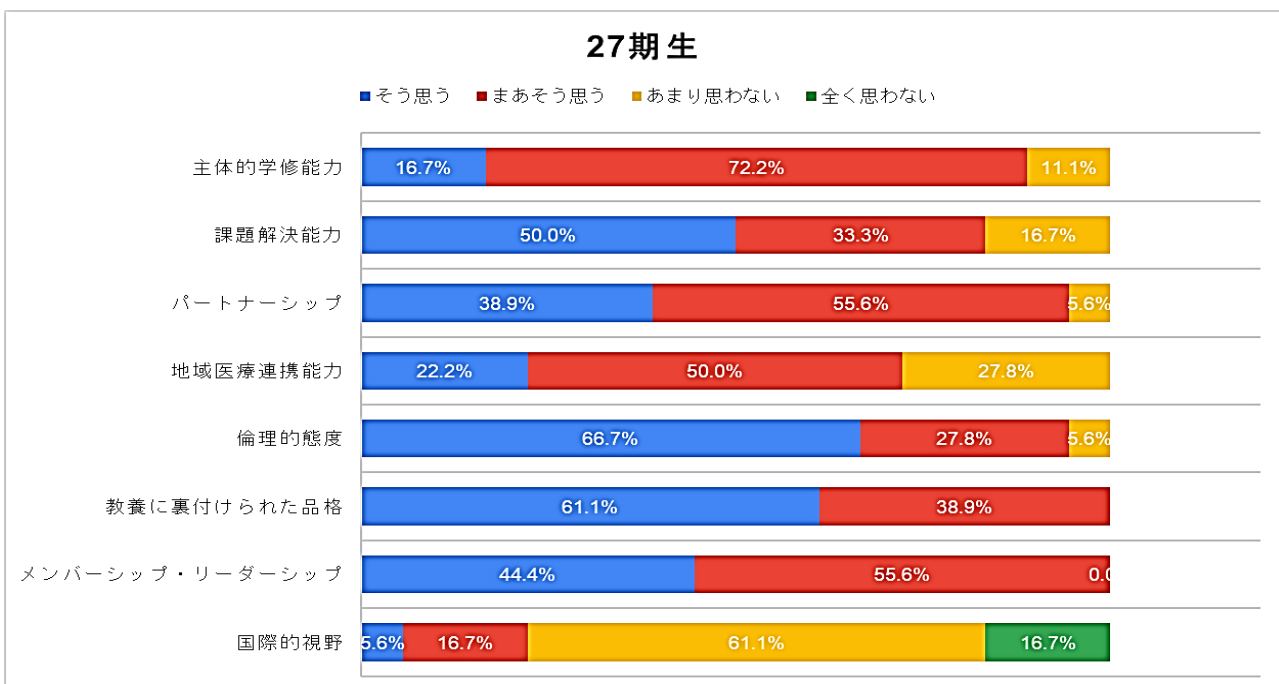
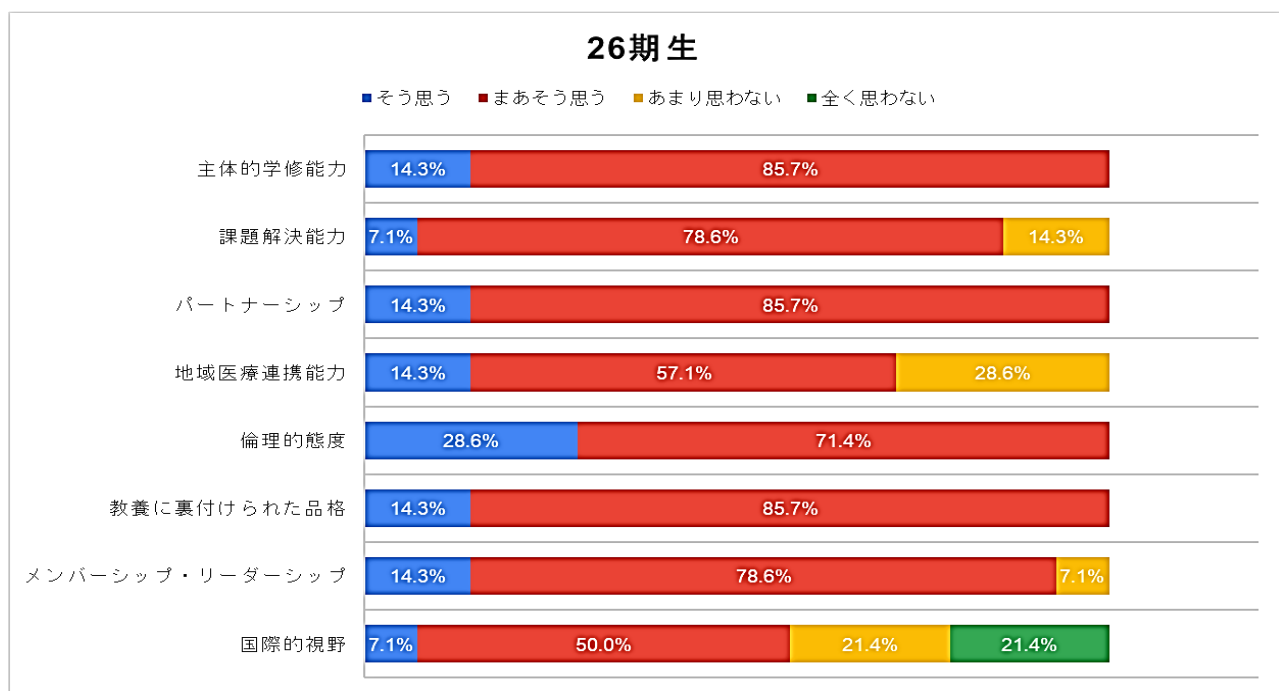
	26期生	27期生
東京医療保健大学	1	1
日本赤十字社助産師学校	-	2

10) 未進学者の進学希望

	26 期生		27 期生	
進学した	2	14.3%	3	16.7%
進学希望がある	0	0.0%	2	11.1%
進学希望はない	6	42.9%	9	50.0%
どちらともいえない	6	42.9%	4	22.2%

3. 結果

1) 看護学科で学んだ教育プログラムを就職先や進学先で活かすことができたか



2) 自由記載

DP1 主体的学修能力

【そう思う】【まあそう思う】

<26期生>

- ・ 自分で今どんな勉強が必要か考えて勉強することができていると思うから
- ・ 自分から学ぼうとするようにしているため。
- ・ 学生時代に取り組んでいた課題へ向き合う姿勢を時折思い出すことができていると感じるから。
- ・ 積極的に発言したり行動することを上司等から褒められるため。

<27期生>

- ・ わからないことについては自分から進んで調べている。
- ・ 日々新しいことに直面する中で自ら学ぶ必要が不可欠であるため。
- ・ 働いてからも学ぶことが必要であり、それは課題等ではなく、主体的に学ぶ必要があるため。
- ・ 看護の力が看護専門学校の同期と比べて深いと思う
- ・ 仕事を始めてから課題という形で勉強することがなくなった分、自分で気になることは調べることが習慣となったように思うから

DP2 課題解決能力

【そう思う】【まあそう思う】

<26期生>

- ・ 事例研究等で、大学で学んだことを思い出しながら課題をすすめている
- ・ ラダー研修やアセスメントでいかされているため。
- ・ 知識を日々身に付けなければならないと感じることや、一度看護研究を行ったことで病院で研究に参加するか尋ねられた際にハードルが下がり、自主的に参加することができたから。
- ・ プライマリーナースとして考える力がついたと思うため。

<27期生>

- ・ 課題は常にあり、解決することが求められるため。
- ・ 視野の広さが違う
- ・ わからないことがあった時に勉強して根拠を持てるようにする、というプロセスを踏むことができるようになったから
- ・ アセスメントをするときに役立てている。

【あまりそう思わない】

<27期生>

- ・ 知識を用いて解決することも重要ではあるが、初めは自分なりの答えを出して実践する事が正しいと限らないため、先輩方に教を乞うことが多かったため。

DP3 パートナーシップ

【そう思う】【まあそう思う】

<26 期生>

- ・ 職場でも勉強会などで学んでいるが、基礎の考え方などは大学で学んでいたと思うから
- ・ 患者さんや看護師の先輩や後輩と良好な関係を作れていると思うため
- ・ 患者に対しても、医療者に対しても、相手を尊重する気持ちを忘れないよう心掛けているから。
- ・ ペアナース制度のもと協力できるから

<27 期生>

- ・ 同僚、上司と良い関係を気付いていると思う。
- ・ 看護師はチームでの仕事のため、メンバーシップが不可欠であるため。 **
- ・ 働く上で、先輩や同期と協力することが求められるため。
- ・ 患者さんの全体像を意識して看護できている
- ・ チームの 1 人として意見を発信したり、困った時には協力を依頼したり誰かを助けたりできるようになったから

DP4 地域医療連携能力

【そう思う】【まあそう思う】

<26 期生>

- ・ 在宅医療に進みたいと考えたため。
- ・ 退院支援を頑張っているため。
- ・ 地域医療連携で学んだ経験を退院支援に活かしているが、退院支援は奥が深いため、学生時代にもっと学んでおきたかった思いもあります。
- ・ あまりまだ発揮できていない。

<27 期生>

- ・ 視野を広く持って仕事できる

【あまり思わない】

<26 期生>

- ・ 病棟内の業務がほとんどで、なかなか地域のシステムについて考えたりすることができていないと思うため
- ・ 病院から在宅に移る患者さんに、どのような社会資源を利用してもらおうことができるのか、利用してもらったために看護師はどこに連絡をして連携を図れば良いのかの理解が不十分で、実際の現場で学んだことを活用できていない

<27 期生>

- ・ 急性期の病棟であり、退院まで関わるのが少ない。
- ・ 地域包括ケアシステムや連携については専任の看護師などに任せてしまっている部分があり、まだ活かせていないため。
- ・ まだあまり他職種と協力することができてない。
- ・ あまり病院外の人と協働する場がないから

DP5 倫理的態度

【そう思う】【まあそう思う】

<26期生>

- ・ 患者、家族の思いを聞き、尊重できる方法を考えたりしていると思うため
- ・ コロナ禍でも患者さんや家族のニーズを満たせるよう努力しようとしているため。
- ・ 普段働いてる時はそこまで意識していないが、ふと立ち止まって考えた際に、倫理について語り合う授業があったことを思い出すことがあります。
- ・ 研修などでそう思うから

<27期生>

- ・ 倫理から逸脱していないと思う。
- ・ 倫理的態度を意識しているが、患者様から見た視点で評価出来ないため、生かしているのか判断しかねるため。*
- ・ 慣れてきても倫理的感受性を失わないよう意識している。
- ・ 病棟で変えるべき問題点にきづける
- ・ 実習などでカンファをしたことを思い出し、働く中で倫理的課題(身体拘束など)について考えることができたから

DP6 教養に裏付けられた品格

【そう思う】【まあそう思う】

<26期生>

- ・ 礼儀や言葉遣いなどは学生時代から身につけられたと思うため
- ・ 挨拶や礼儀は忘れないようにしているため。
- ・ 接遇について就職先でも意識することができている。
- ・ 患者とのコミュニケーションで発揮できていると思うから。

<27期生>

- ・ 礼節を守っている。
- ・ 5同様。*
- ・ 接遇は意識して取り組んでいる。
- ・ 敬語を使ってる
- ・ 挨拶や言葉遣い等で上司に褒めていただくことがあったから

DP7 メンバーシップ・リーダーシップ

【そう思う】【まあそう思う】

<26期生>

- ・ 何事も積極的に行なっており、チームや同期の関係は良好であるため。
- ・ 看護師の先輩はもちろん、医師やセラピスト、MSWとも積極的に連携するよう心掛けている。
- ・ カンファレンス等で発揮できているから。

<27期生>

- ・ 職場で自分の役割を遂行できていると思う。
- ・ 進学後のグループワークで役に立った。
- ・ 3同様。しかし、リーダーシップに関してはまだ発揮出来ていない。 **
- ・ 一緒に働く人たちと協力して取り組んでいる。
- ・ めげない、チームのなかでの自分の立ち位置を理解してる
- ・ 研修のグループワーク等で司会をしたり、司会をしている人の補助をしたりすることを積極的にできるようになったから

【あまりそう思わない】【そう思わない】

<26期生>

- ・ チームメンバーとしての役割などを考えて働いていると思っている

DP8 国際的視野

【まあそう思う】

<26期生>

- ・ 外国人研修生の方を受け入れており、多文化理解を意識できる環境にあるから。
- ・ 多国籍の患者が多いため

【あまり思わない】【まったく思わない】

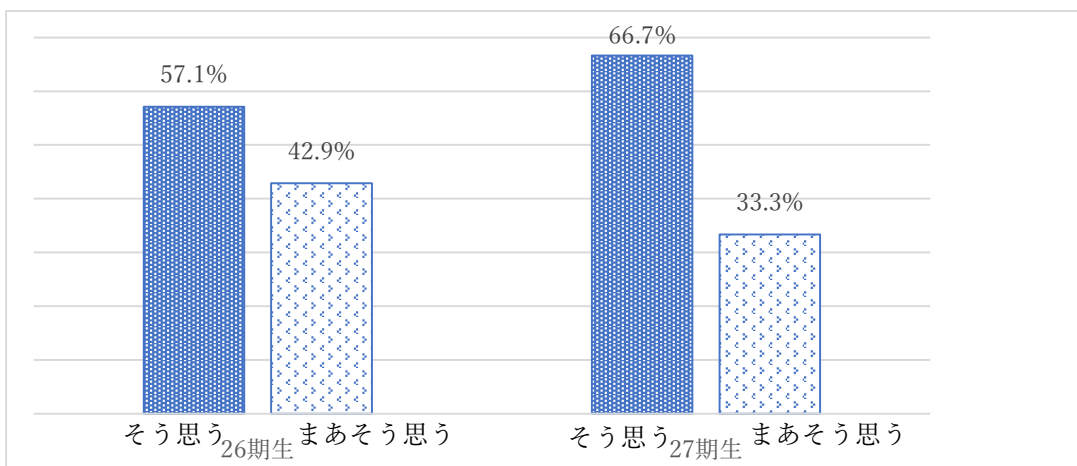
<26期生>

- ・ 外国の人が入院したりすることがほとんどない病院で働いていることで、国際については全く考えずに働いていると思ったため
- ・ 日本人で精一杯であり、外国の方も来る機会がなく、衰えたため。

<27期生>

- ・ 翻訳機に頼ってしまう。
- ・ 外国人の患者様と関わる機会が少ないため。
- ・ 国際的な面を生かす面はあまりない。
- ・ 国際的な視点は全く意識してない
- ・ 国際的な視点を持つ機会が働く中であまりないから

3) 看護学科で学んで良かったですか



自由記述

【そう思う】【まあそう思う】

<26 期生>

- ・ 大変なことも多かったけど、振り返ればたくさん学べたしいい思い出となっているため
- ・ 楽しくやりがいをもって働くことができていたため。
- ・ 医療的知識だけでなく、幅広い視点で自らを成長することができたこと、医学科との交流もあることで多職種連携を取りやすくなったことから良かったと思います。
- ・ 実習等でやったことが身に付いており、良かったと思うことが多いから。

<27 期生>

- ・ 今でも学科の友人の存在は心の支えになっているから
- ・ 学んだことを活かしながら、さらに学び続け、深めることができ、楽しいため。
- ・ 慈恵は少人数制で、きめ細やかなご指導をしてくださったため、慈恵の看護で学んでよかったと思う。先生に相談しやすい環境が整っているということが今思えばありがたい環境でした。
- ・ 看護の力が違うと思う
- ・ 良かったと漠然と思うが、専門学校などでの学びと主観的に比較が出来ないため、利点等については判断し兼ねると考えた。しかし、実習や演習での学びは今に生かせていると感じているため、上記の回答とした。

4) 看護学科で受けた教育の中で、これからも継続すべきこと

<26 期生>

- ・ 倫理的な問題に関するグループワーク
- ・ 主体性と協調性を育てる教育がとても良かったと思います。
- ・ 医学科との共習科目や、グループワークを多く取り入れた授業はコミュニケーション能力の向上にも役立ったと思う。
- ・ 地域連携室での実習や授業。医学科との合同授業。グループワーク。
- ・ パソコンの授業

<27 期生>

- ・ 医学科との共修の授業や演習
- ・ 様々な科目で行われたグループでの演習。
- ・ "看護倫理について考える機会が就職してから自らやらない限りなかなかない現状があるため、時々ふと大学で学んだことを思い出して患者さんとの関わりについて考える機会がありました。学生の頃は何度も倫理について考える機会があつて正直ここまでやらなくても…と思ってしまうこともあったのですが、今となっては本当にありがたかったなと思っています。ぜひこれからも継続していただきたいです。
- ・ また、高校生の頃までは自分の意見を発信することがあまり得意ではなく無理して話していたのですが、大学でグループワークが日々行われるうちに鍛えられたように思います。病院でのカンファレンスや先輩とのやり取りでも過度に緊張することなく自分の考えを伝えられているので、今後も

授業の中で取り入れていただきたいなと思いました。"

- ・ 課題の量は多かったが、全て自分に返って来ている。学校での勉強が病棟で学ぶときの大きな基礎になっているので、看護学生に学校での学習の大切さを伝え続けてほしい。
- ・ ディスカッションなど

5) 看護学科で受けた教育のなかで、改善したほうがよいと思われること

<26期生>

- ・ 不必要な紙媒体での課題提出。
- ・ 紙ベースの記録
- ・ 実習先の看護師ともう少し調整して、受け入れる側も実習生側も気持ちよく実習ができたらいと思う
- ・ 必要以上に課題が多く、質を高めるのではなくこなすことが目的になってしまっている状況。それぞれの教科間で課題の量やタイミングを調整した方が良いと思います。
- ・ 課題の量。授業や実習の大切さも理解できますが、バイトなど人生経験を増やす機会をもう少し寛容に受け入れることも必要かと思います。多職種へのシャドウイングの機会をもう少し増やしても良いかと思います。
- ・ 英語の集中:フランス語などの多国籍ではなく、集中したかった。

<27期生>

- ・ 国際看護に興味がある学生が、キャリアを実現するための教育を充実させて欲しかったです。
- ・ 英語の勉強が残念だった。もっと実践力のあるものをやりたかった。
- ・ 外国語教育(英語)にもう少し力を入れてもいいのかもしれないと感じました。やはり一般的な学部比べてかなり英語のレベルは低いなと感じていて、実際に外国人の患者さんと接する機会も時々あるため、学生時代からもう少し英語に触れる機会があったら良かったなと思います。もちろん、自分で勉強する意識を第一に持たないことにはなかなか身につかないかもしれませんが、3・4年生でも希望者だけでも何か英語に触れられる機会があったら、個人的には嬉しいなと思いました。
- ・ 卒業前トレーニングに関して、実際に実施することの多い援助技術などは低学年で学ぶことが多く、実習にて実践できなかったもの(ミキシング等)については現場で久しぶりに行き、1から学ぶように感じたため、演習の場があれば現場でも困らずに実践できるのではないかと感じた。
- ・ 今思えば、フィジアセなどは臨地実習がある学年になってからも定期的に振り返る授業があるとよかった気がします。

4. 点検・評価と改善点

以上より、本内容について点検・評価について利点を実線、欠点を点線、改善点についての対策を二重線で示した。

今年度は対象者を絞り、卒業生を通じて学年 LINE による調査依頼を複数回おこなったことにより、回収率が大幅に増加した。キャリアサポートステーションを通じたメールでの依頼に対する反

応はなかったため、次年度も学年 LINE による調査依頼は継続した方がよいと考える。ただし、依頼する卒業生に負担をかけてしまう可能性があるため、ホームカミングデイが対面開催される場合は、その場で回答を依頼する方がより適切であろう。また今年度は対象者を変更したが、全卒業生を対象とした調査と同等の回答が得られており、今後も卒後 1 年目、2 年目を対象として調査を継続する。

今回の結果においても、看護学科で卒業時に求める 8 項目の DP に対する教育プログラムは、概ね高い評価が得られた。特に DP6「教養に裏付けられた品格を備えた態度」は 27 期生・26 期生ともに 100%であり、DP3「パートナーシップ」94.5~100%、DP5「倫理的態度」94.5~100%、DP7「メンバーシップ・リーダーシップ」92.9~100%、DP1「主体的学修能力」が 88.9%~100%と約 9 割以上の割合で活かしていた。これらは、平成 29 年カリキュラム改正による教育プログラムが、多職種連携の強化、倫理教育の充実、メンバーシップ・リーダーシップを実践的に学ぶプログラムへと進化したことによる効果と考えられる。自由記載からも、DP6 や DP3 は、学生時代に基礎を修得でき、進学先・就職先においても意識して取組めている様子が伺えた。DP5 も臨床で出会う患者や家族に関わる際や病棟での問題点に気づく際に役立っていた。また普段は特に意識しなくとも、ふと立ち止まったときに学生時代に語り合った授業や実習を思い出し、現場に活かしている様子が伺えた。継続すべき教育内容としても「倫理的な問題に関するグループワーク」が挙がっており、現場に出てから教育内容の重要性に気付いた回答も寄せられた。また、大学で多く行われるグループ学修は発言力・コミュニケーション能力を鍛える場になっており、臨床でも役立っていた。

一方、平成 29 年カリキュラム改正による教育プログラムでは、課題解決能力の強化、国際的視野の強化が行われたが、今年度の対象は卒後 2 年未満であるため先輩に教を乞うことが多いことや退院まで関わるのがなかつたり、退院調整を専門とする看護師に任せたりしている等の状況から DP2「課題解決能力」や DP4「地域医療連携能力」を活かしていると回答した割合はやや低かった。継続すべき教育内容としても、病院や地域での連携実習や授業を望む回答があり、看護職者として必要な内容と認識している様子が伺えた。教育プログラムのなかでの課題量については、改善すべき点と継続すべき点の両方に記載されており、必要性や重要性を学生に伝えていくことが課題として考えられる。また、DP8「国際的視野」についても、就職先の状況（海外の研修生や患者が多い）や日本人の患者対応で精一杯の状況によって回答が左右されていた。特に DP8 については、改善すべき教育内容として挙がっており、4 年間を通じてより英語に力を入れた教育プログラムが求められていると考えられた。

以上より、本年度の卒業生アンケートは卒後 1~2 年目の卒業生を対象に実施したが、例年と大きな差はなく本学科の教育プログラムが概ね進学先や臨床で活かされていると評価できる内容であった。本学科の教育プログラムは、今回の調査で対象となった学年以降も変更がなされており、特に DP4 や DP8 については卒業生からの評価が改善されていくか動向を注視する必要がある。